

主の昇天の祝日

金 大烈 神父

2008年5月4日(日)

《主の昇天の意味》

おはようございます。お元気ですか？ 今日は何の日かご存知でしょうか？ 主の昇天のお祝いの日ですね。しかし、皆様の顔を見ますとそんなに元気じゃない気がしますね。喜びの日ですので喜びを持ってミサに与かって頂きたいです。説教に入る前に一言を話しをしたいです。今日の答唱の内容は「主は昇られた喜びの叫びのうちに」でしたよね。しかし、皆様の歌の声は中身と違い全然喜びがない声のように聞こえますね。もう一度皆様、笑顔で歌ってみましょう。そしていつも歌うときはその言葉の意味は何を表しているかを感じて歌って下さい。うれしい歌の時はうれしい気持ちを持ち、悲しい歌の時は悲しい気持ちで歌ってください。歌を上手く歌えばその歌自体が祈りになります。そして聞いている人にも祈りになります。いつも意識しながら歌いましょう。

それでは、主の昇天の祝日は私達にとってどういう意味があるのでしょうか？ ただ、イエス様が天に上げられたということでしょうか？ この主の昇天の祝日を迎えた私達は何を思い出せば良いのでしょうか？ 簡単に説明します。私達はイエス様のことを神様の一人子、御父の一人子と教えてもらって信じています。御父が人間の墮落した模様を見て、もどかしい心で自分の愛している息子を人間の形でこの世の中に使わしました。使わされたイエス様は御父からいただいたいろんな使命を全部果たし、十字架につけられ死を迎え、3日後御復活されて神様の形で天に上げられたということを主の昇天だと言います。主の昇天のことは未来のことを意味しています。私達はがんばっても、いい薬を飲んでもこの世の中では永遠に生きることは絶対出来ません。順番が互いに違うかも知れないですが、誰でも例外なく死にます。主の昇天の祝日に向かって私達が考えることは、イエス様によって示された新しい生命・生き方・変らない・終わらない命の世界を思い出すことです。主の昇天が私達に意味があるとすればそれは私達の終わってしまうこの世ではなく、変らない永遠の命の世界、新たな命を受けることであり、それを理解して、その新しい命を受けるために私達はどうすればいいのか、今過ぎてしまうこの世の中に執着しない方法は何だろうか、イエス様が見せて下さったその道をどうすればついていけるのかを改めて考えることです。そしていつか私達が行かなくてはいけない永遠の世界に希望を置くことです。主の昇天の祝日をもう一回振り返って見ましょう。今日私達が何よりも受け入れなければならない教えはこの過ぎてしまう、腐ってしまうこの世の中であまり欲張る姿で生きないことではありませんか。何の役にも立たないことに心を注ぐより、自分の霊的なところに傷つけるものは出来るだけ避けようとする決心が必要です。それが主の昇天の祝日にイエス様が私達に送って下さったメッセージだと思います。私達は極めて求めるものはこの終わってしまう世界ではなく、約束された新しい変らぬ恵みの新生活であることを心に刻んで頂きたいんです。

もう一つについて申し上げたいです。4日前にあるブラジルの赤ちゃんが亡くなりました。その赤ちゃんは2ヶ月前に生まれつきの病で病院の世話をもらいましたが、結局亡くなってしまいました。赤ちゃんの親の仲間から赤ちゃんを火葬場に行かせる前に来てもらってお祈りを願ってもいいかという連絡がありました。行ってみました。そこは葬儀場で赤ちゃんの棺の後ろに神道式の祭壇が飾られた所でした。入ると違う気が流れていることを司祭は感じます。とても気持ちが良くありませんでした。そしてそこで私は祈らなければならないことでした。なぜ親はこのような方法しか探せなかったのかと思い、本当に悲しくなりました。とにかく、両親に出来るだけ赤ちゃんの棺を教会の聖堂に運んでこられるように話し合ってもらいましたが、式場の関係で無理だったので後で教会で赤ちゃんのためにミサだけ捧げました。お願いします。信仰は絶対お金と関係ありません。特に外国人は教会でお葬式したらお金がかかるとか、司祭呼んだら謝礼をしなければいけないと要らない心配をする場合

があります。お金が欲しかったら私は神父に成らなかったと思います。お金の問題ではありません。なぜお金と信仰をつなげて考えるんですか。赤ちゃんが死んで神様に呼ばれた時親が思い出すのはお金ではなくどうすればこの子をきれいに見送ることが出来るのかを考えなければいけないのです。個人的に日本語の納骨が出来ないところがあります。それは金に‘お’という尊敬を表わす接頭語をつけるかということです。ただ金です。実際に金によって困る世界ではありませんか。教会の信仰さえお金を考えずに出来なかったらそれは教会ではありません。もし金がないから、この子供のお葬式のミサが出来ませんと言ってしまったらそれは司祭ではなく獣です。お金の問題ではありません。お願いします。今日のこのミサに預からなかった人々にも伝えてください。こういうことに困った人に何よりも子供のことを考えて欲しいと伝えてください。金が全然なくて困ったら教会が払います。必要なお金なら教会が払うべきです。それが教会の姿です。まず子供の命を考えていただきたいです。それが一番大切なことではありませんか。

さあ、次の話しです。条件洗礼と言う言葉を聞いたことがあると思います。条件洗礼ってそれは何ですか。洗礼は誰が授けるんですか。皆さんも洗礼を授ける権利があります。洗礼はもちろん司祭が授けますが洗礼を受けた皆さんも洗礼を授ける権利があります。未信者の臨終の時、皆様も条件をつけて洗礼を授けることができるし、それは権利であり、義務です。もし道を歩いていて目の前で交通事故が起きて倒れて死にそうな人の姿を見たらどうしますか？ もちろん救急車を呼びます。そして道で溜まった汚い水でもあったらその水で洗礼を授けるべきです。「もしも、あなたが洗礼を受けるのに相応しいであれば、私はあなたに父と子と聖霊の御名によってあなたに洗礼を授けます」ということです。そして、親は信者で司祭が来るのが間に合わない赤ちゃんの緊急の場合は急いで親が洗礼を授けられます。私達はいつも意識するべきことがあります。もう一回確かめる質問させていただきます。皆様は洗礼を授けられるのでしょうか？ はい、出来ます。そしてもしかして、この人は呼ばれるかもしれないので、そのときは信者としてこの人の協力者になるという意識です。勿論、そのような条件の洗礼を受けた人が意識を取り戻し回復したらその洗礼は無効になります。回復したら司祭のところに連れて行って洗礼を本当に望んでいるかいないかを確認して要理の勉強をして正式に司祭から洗礼を授けてもらいます。

今日の主の昇天の祝日を迎えてこのミサ前に4人の赤ちゃんが洗礼を受けました。うれしいことです。このミサを通して、この4人の赤ちゃんたちが綺麗に成長するように祈っていただきます。

ゴールデンウィークでミサに与かる人が少ないんじゃないかと思いましたけど沢山の皆様が来られましたのでうれしいです。

今日の福音を通して私達がなぜこの世に生きているのかを、どのような生き方をすればいいかを、私達が望まなければいけないものは何なのかを悟る日曜日になって欲しいです。そして、私達の持っている信仰の権利と義務についてもっと深く考えて見る機会になってほしいです。

ありがとうございました。